

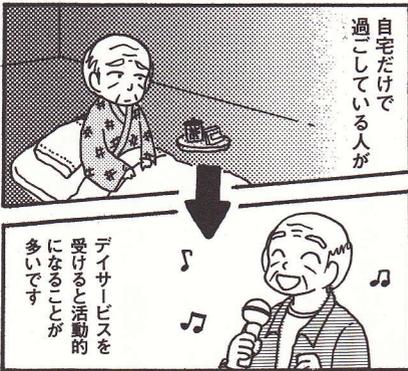
第9話

とうにょうびょう

糖尿病と尿失禁の関係

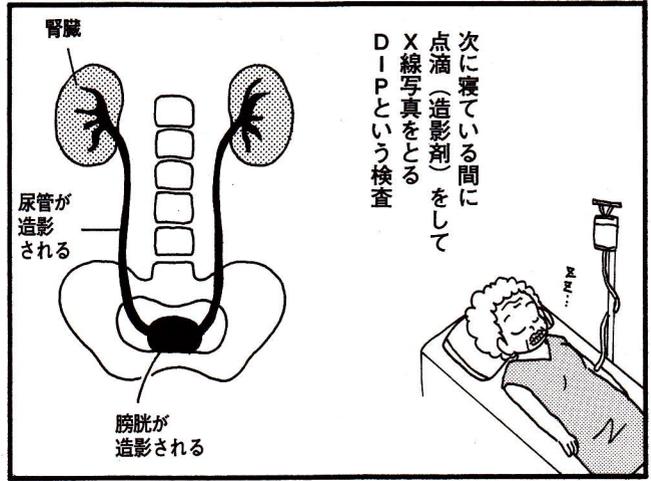
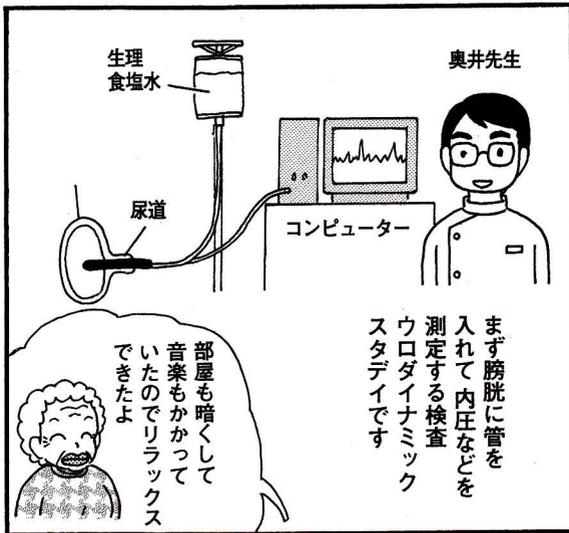
「糖尿病」と「尿失禁」には、意外に密接な関係があることは知っていますか？ 糖尿病からくる知覚障害によって、尿失禁になることがあるというケースを掛布さん(82歳・女性)の例からみてみましょう。

作・奥井識仁 まんが・天星 玲



まじめに糖尿病の治療をしていた 掛布さんですが





最後はパッドテストです

パッドテスト

0分 新しいパッドを用意
重さを量る
500mlの水 またはお茶を飲む

15分 運動
歩行30分
階段の上り降り
イスに座る 立ち上がる10回
強い咳10回
1カ所走り回る1分
床のものを腰をかがめて拾う5回
流水で手を洗う1分

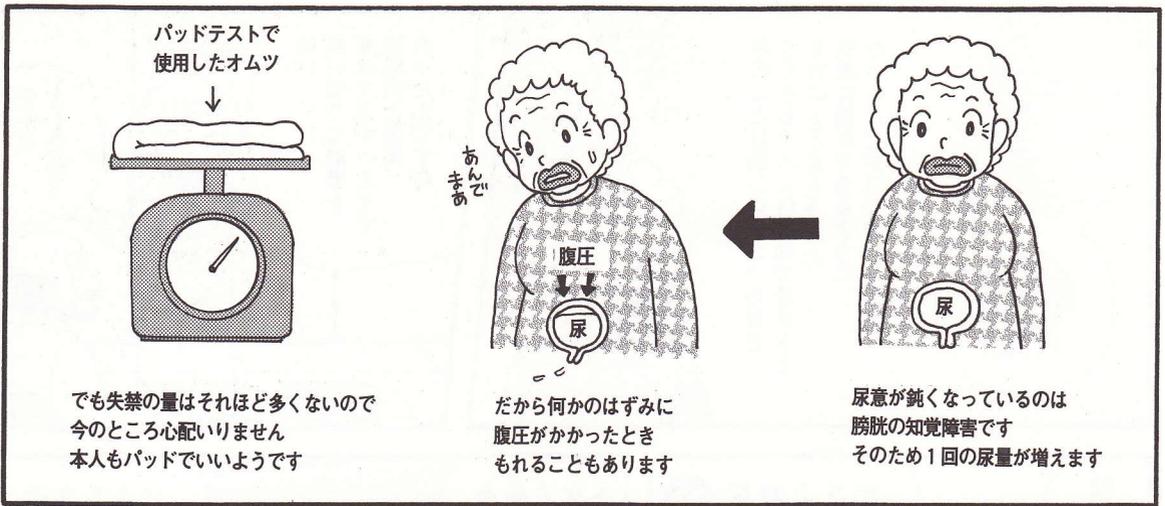
60分 終了
パッドの重さを量る

使用前の
パッドの重さ

と

使用後の
パッドの重さ

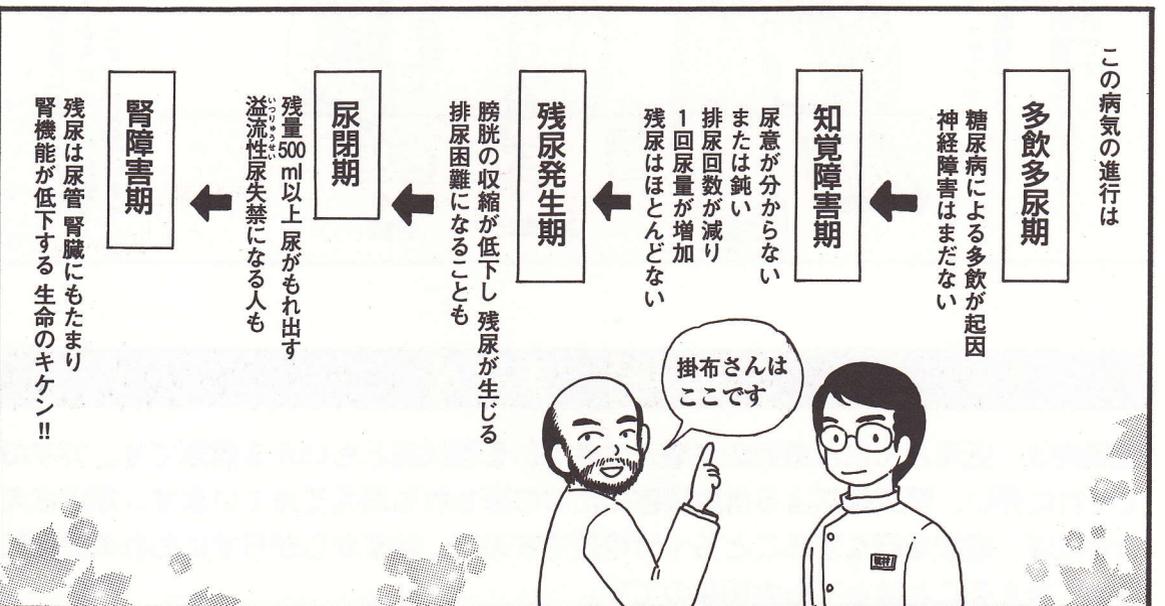
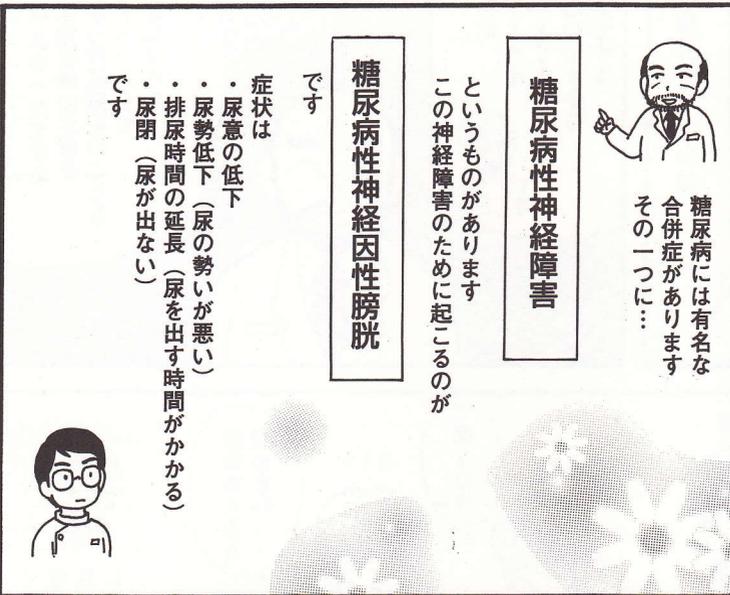
の差が尿失禁量

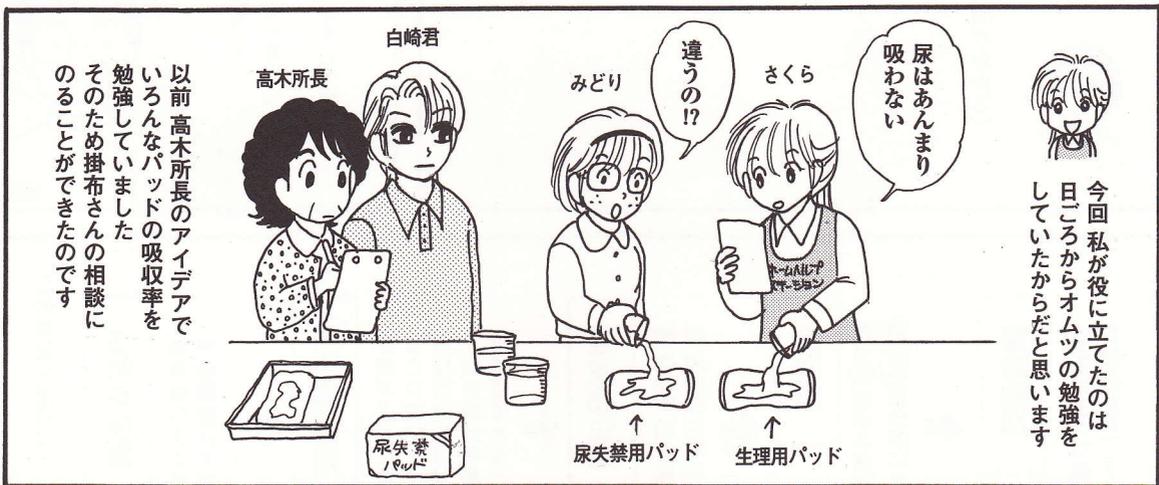


でも失禁の量はそれほど多くないので
今のところ心配いりません
本人もパッドでいいようです

だから何かのはずみに
腹圧がかかったとき
もれることもあります

尿意が鈍くなっているのは
膀胱の知覚障害です
そのため1回の尿量が増えます





第9話 まとめ

糖尿病は、近年どんどん患者数が増えている現代病ともいえる病気です。ですのでそれに伴い、糖尿病による排尿障害のための尿もれも増えてきています。原因さえわかれば、症状を軽くすることも十分可能ですので、恥ずかしがらずにもれの原因について考えることはとても大切なのです。

「糖尿病と尿失禁の 関係は」

●泌尿器科での検査

泌尿器科を受診すると今回のように、いくつかの検査を受けることとなります。

①DIP（じょうみやくせいじんぞうえい静脈性腎盂造影）……エックス線（レントゲン写真）で白く写る成分（造影剤）を点滴すると、腎臓で尿がつかられて尿管を通過して膀胱へ流れる様子がわかります。

②腹部超音波検査（エコー）……超音波をあてて、おなかの中に異常がないか調べます。腎臓がん、膀胱がん、水腎症（腎臓に尿がたまってふくれる）などがわかります。

③パッドテスト……尿失禁の検査で、自宅でも簡単に計測できます（マンガP48参照）。治療の目安としては尿失禁量が10g以上を異常（治療対象）と考えます。

④血液検査……BUN（ビーユーエヌ・血中尿素窒素）とCr（クレアチニン）が腎臓の機能を評価します。

⑤台上診察……必要に応じて陰部を診察して、性器脱や奇形、外陰部皮膚炎などがどうか調べます。

●糖尿病の3大合併症

①糖尿病性神経障害……神経が糖尿病により障害され、感覚や働きが鈍くなることです。今回の神経因性膀胱の原因です。



よく耳にする「糖尿病性壊疽^{えそ}」は糖尿病による神経障害のために足などの体の末梢にできた傷に気がつかず、その周辺の組織が破壊され死んでしまうことです。ひどい場合には、「壊疽^{えそ}」の起こった足を切断する必要があるようです。

②糖尿病性網膜症……糖尿病のために、目の中の網膜の血管が弱くなり、最終的には失明してしまうものです。

③糖尿病性腎症……徐々に腎機能が低下し、最終的に腎不全になります。どの合併症も、一度起こったものを元に戻すのは難しいですが、血糖をコントロールすることで、予防することができます。糖尿病担当の主治医の先生の説明をよく聞いて、食事や投薬をきちんと守りましょう。

※糖尿病と夜間頻尿

糖尿病の人は喉が渇くので、知らず知らずのうちに水分の過剰摂取をしていることがあります。これを多飲多尿期といいます。そしてそのまま放置していると今回のような知覚障害がでてくるのです。